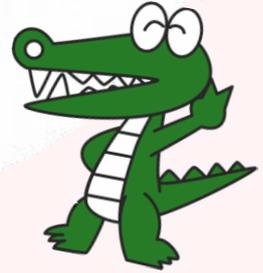




とよなかの環境

2020年度 速報版

豊中市では「第3次豊中市環境基本計画」に基づいて環境施策を進めています。「とよなかの環境・速報版」（環境報告書）では2020年度（令和2年度）の活動実績をふまえて、施策の進ちょく状況の速報結果を公表しています。市民のみなさんからのご意見、ご提案を受けて、今後の施策の展開・事業の見直しを行います。



環境目標

目標
1

よりよい環境をめざして
多様な主体のパートナー
シップで取り組む

目標
2

1人あたり温室効果ガス排出量（t-CO₂）を令和9年度（2027年度）までに、平成2年度（1990年度）比32.1%削減し、低炭素社会をめざす

目標
3

発生抑制・再使用と質の高いリサイクル（再生利用）の推進により、ごみの焼却処理量を令和9年度（2027年度）までに平成28年度（2016年度）比8%削減し、循環型社会の構築をめざす

目標
4

みどり率27%で心豊かな
豊中らしいまちをめざす

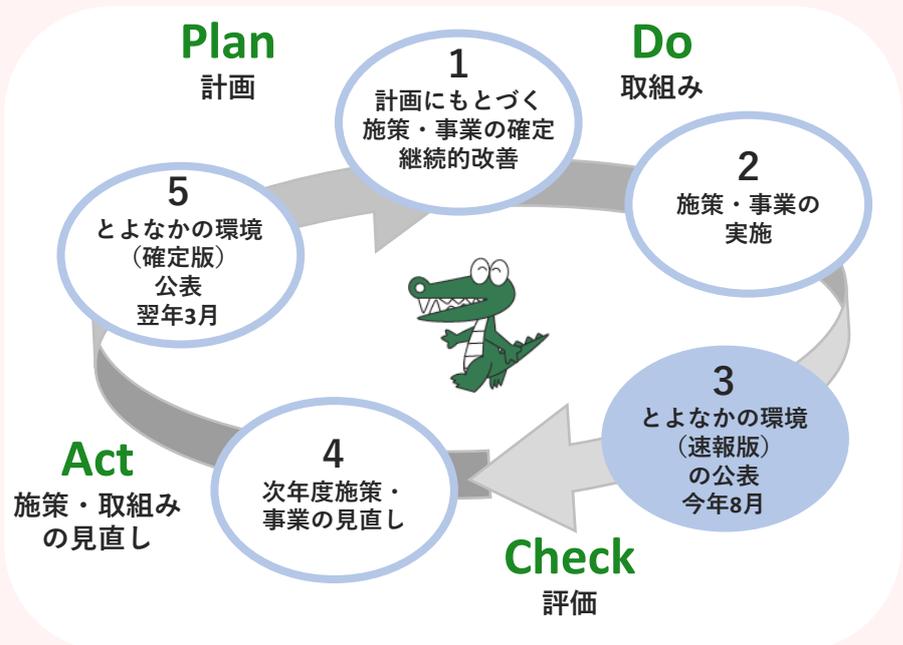
目標
5

環境基準の達成状況100%で
快適な都市環境をめざす

計画の進め方

計画の推進を着実に図るために、PDCAサイクルによって毎年度、活動を評価し、進行管理を行っています。

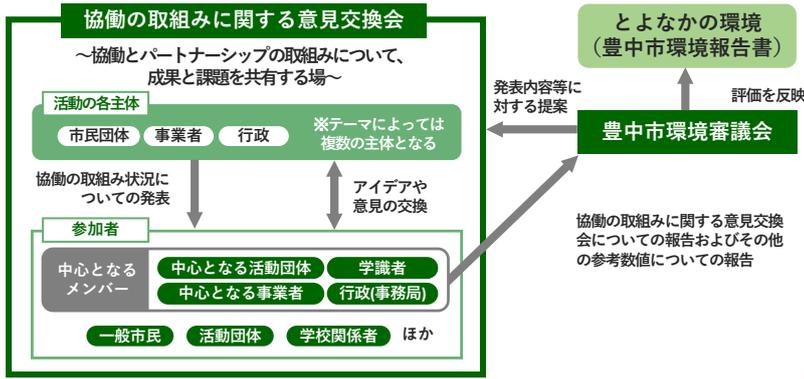
進行管理の中で、環境報告書を8月（速報版）と3月（確定版）に公表し、環境審議会と市民のみなさんからのご意見やご提案をもとに施策・事業を見直し、改善を図りながら、目標の実現をめざして取り組んでいきます。



2020年度施策進ちょく状況の見方

目標 1

協働とパートナーシップの取組みに対する評価のプロセス



協働とパートナーシップの進行管理

多様な主体のパートナーシップの取組み成果や課題を共有する「協働の取組みに関する意見交換会」を毎年開催しています。

豊中市環境審議会では、意見交換会の結果と参考数値の動向をふまえて進行管理を行います。

進ちょく評価

今年度の速報版では、協働の取組みにより生物多様性保全を行う活動団体の中で一部の活動事例を紹介しています。「協働に関する意見交換会」を実施し、結果については、2021年（令和3年）3月発行の「とよなかの環境・確定版」で公表する予定です。

目標 2～5

環境目標

各環境分野ごとに環境目標を設定しています。

市の取組み

市の主な取組み内容を紹介しています。

指標の進ちょく状況

代表指標は目標達成に最も影響を与えるものです。その他の指標は、代表指標を補完または影響を与えるものです。

家庭や事業所で できること

環境目標に向けて市民や事業者のみなさんに取り組んでもらいたいことを記載しています。

取組照会

活動団体・事業者等の取組み事例を紹介しています。

評価の判断基準

環境基本計画の進行管理として、目標2・4は、代表指標に目安線をひいています。目安線と数値の関係や前年度との比較でA～Dをつけています。

目標3は、第4次豊中市一般廃棄物処理基本計画の年度目標値に比較して評価をつけています。

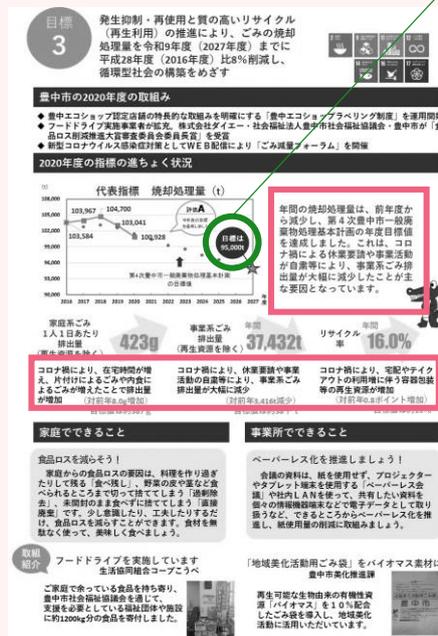
- A** 今年度の目標を達成しました
目標達成のめやす以下かつ前回値以下
- B** 今年度の目標を達成しましたが、
さらに努力が必要です
目標達成のめやす以下かつ前回値より大きい
- C** 改善の傾向にありますが、
更なる努力が必要です
目標達成のめやすより大きく、前回値以下
- D** 改善の傾向にありません
目標達成のめやすより大きく、前回値より大きい

備考：目標4は以上を以下、以下を以上に読み替える。大きいを小さいに読み替える。

目標5は、すべての環境基準を達成した場合「A」、達成していない場合「D」をつけています。

要因分析

代表指標および指標が「どうしてこのような結果になったのか」を市で要因分析しています。



豊中市環境審議会からの評価

市民・事業者・市民団体・学識経験者などで構成された豊中市環境審議会において、環境基本計画に関することや環境の保全および創造に関する基本的事項を調査審議しています。豊中市環境審議会から、施策の進ちょく状況を評価いただきました。

参考：人口データ

2020年度 400,655人、2020年度 401,554人、2021年度 401,233人 (8月時点)

ご意見やご提案をお聞かせください

右のQRコードから、「とよなかの環境・速報版」を読んで疑問点や各施策に関する要望、これから取り組むべきことなどにご意見やご提案をお寄せください。

2022年（令和4年）3月発行の年次報告書等で紹介いたします。

豊中市HP



よりよい環境をめざして 多様な主体のパートナーシップで 取り組む



豊中市の2020年度の取組み

- ◆ 動画共有サイトYouTube「とよなか環境TV」にて、随時環境に関する情報を発信
- ◆ 指定管理者制度における環境交流センターの選定評価委員会の中間評価を実施
- ◆ 公民館と協働して環境報告書のパネル展示および環境報告書や食品ロスに関するイベントを実施

2020年度の協働の進ちょく状況

2021年度の「協働の取組みに関する意見交換会」のテーマは
「地球温暖化防止に向けた取組みの推進」です



1. 活動団体の協働の取組みの紹介

NPO法人 豊中市民エネルギーの会
学校法人蛸池学園 あっぷるこども園において、施設の屋根に太陽光発電設備を設置。園児やその保護者、近隣の保育園や小学校を中心に紙芝居などを用いた環境教育を行い、再生可能エネルギーの普及啓発を実施。



NPO法人 とよなか市民環境会議アジェンダ21
地球温暖化対策省エネ推進事業として、豊中市や市内の事業者・団体と協働し、チャレンジマイナス70推進協議会を運営。家電や住宅の省エネ診断、SNSを活用した取組みを実施。この他にも大学の環境サークルと協働して環境学習を実施。



2. 市内団体の抱える課題

- 活動の担い手の高齢化が進んでいる。
- 若い親世代（ファミリー層）へのアプローチが難しく広がらない。
- 市内団体の活動情報にうまくリーチできていないためうまく協働ができない。
- 取組みについて情報発信をしているが、広報が的確にできていない。
- 地球温暖化防止に関する取組みはその効果が見えづらいため、取組み効果の見える化が必要である。

3. 今後の展望、活動のヒント

- **新たな環境教育の教材の検討**
幼稚園から中学校まで、園児・児童・生徒の成長に合わせた教育が必要であり、一貫した教育ができるように新たな環境教育の教材の制作。
- **親世代、子世代への啓発**
環境学習を行う際には、園児・児童・生徒の親世代にも授業参観等の機会を用いてSDGsなど環境に関する情報提供を行うことや、子どもが家庭に持ち帰り理解を広げる教育の機会を創出。
- **取組みのコーディネート**
公民館で行われるイベント等を通して活動を繋ぐコーディネート等の機会を創出。
- **取組み効果の見える化**
市民の取組みを促進するためには、取組み効果の見える化も含めて進めていくことが必要。
- **情報発信による企業との連携促進**
企業が活動団体や自治体に情報発信やノウハウの提供などで連携が促進。
- **近隣自治体との連携促進**
既に連携している吹田市や能勢町、NATSを中心に環境学習のノウハウ共有など広域的な連携を促進。

家庭でできること

市のホームページ、SNSなどの
情報を収集しよう

コロナ禍により対面でのイベント等の開催が難しくなっています。HPなどの市の情報を確認して環境に関する情報を知っていただき、できることから環境に関する取組みをすすめてください。



事業所でできること

とよなか市民環境会議に参加しよう

環境問題に取り組む市民・事業者・行政のパートナーシップ組織である「とよなか市民環境会議」への参加団体を募集しています。現在135団体で豊中の環境保全活動に取り組んでいます。とよなか市民環境会議のホームページやFacebookも公開しています。

目標 2

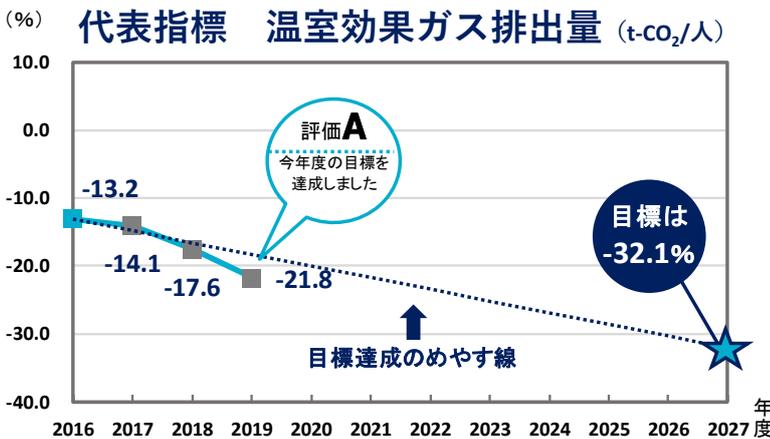
1人あたり温室効果ガス排出量 (t-CO₂) を令和9年度 (2027年度) までに、平成2年度 (1990年度) 比32.1%削減し、低炭素社会をめざす



豊中市の2020年度の取組み

- ◆ 吹田市と「地球温暖化対策に資する自治体間連携・協力に関する基本協定」を締結。吹田市が実施している「みんなで簡単やさしい電気の切替キャンペーン」を連携して実施
- ◆ 吹田市と「気候非常事態共同宣言」を実施し、ゼロカーボンシティを表明。市では宣言内容に関する動画を公表

2020年度の指標の進ちょく状況



市民一人あたりの温室効果ガス排出量は、目標達成のめやすを下回っています。昨年と比べ、家庭部門及び産業部門を中心に排出量が減少傾向になっています。



※エネルギー消費量算定のもととなる、市内の販売電力量についてすべての把握が難しい状況です。

廃棄物部門
温室効果ガス排出量
1990年度比
年間 19.9% 増加

廃棄物の焼却量は前年から変化はないが、プラスチック混合比率が高くなった影響で増加
(対前年10.2ポイント増加)
目標は減少

家庭部門
市民一人あたり
エネルギー消費量※
年間 12,024GJ/人

住宅や家電の省エネ化及び市民の省エネ意識の向上により減少傾向
(対前年954GJ/人減少)
目標は減少

運輸部門
温室効果ガス排出量
1990年度比
年間 31.0% 減少

市民の自動車所有台数に変化はないが、自動車の低燃費化が促進された影響で減少傾向
(対前年2.7ポイント減少)
目標は減少

家庭でできること

SNSで省エネ行動を広めよう!

毎月16日に「#せーのでエコ活」をつけて、取り組んだ省エネについて投稿された方にプレゼントがもらえる素敵なキャンペーンを現在実施しています。公式アカウントをフォローして確認してください!

@Toyonaka_5070



事業所でできること

再生可能エネルギーを活用しよう!

事業で使う電力を、太陽光や水力、バイオマスなど自然由来の電力に切り替えることで、事業から排出されます。CO₂を抑制できます。電力の切り替えをご検討ください。



取組紹介

環境に優しいバスをめざして

阪急バス(株)

運転士にエコ運転教習を実施しており、訓練車内にメスシリンダーを設置し、燃費の消費を目で見てわかる仕組みとしています。また、市域南側の東西方向を結ぶ新規路線バスの運行を開始し、公共交通の充実を図ることで「ひととまちに優しい阪急バス」をめざしています。

省エネルギー車両の導入

北大阪急行電鉄(株)

電車を走行させるには電動機を使用しますがブレーキ時には、その電動機を回転力発電機として活用し、そこで生まれた電力を電車線へ帰し、付近を走行している電車のエネルギーとして使用します。このシステムを「回生ブレーキ」と言い約20%~30%の電力が他の電車ですでに使われる、省エネルギー車両となっています。

目標 3

発生抑制・再使用と質の高いリサイクル（再生利用）の推進により、ごみの焼却処理量を令和9年度（2027年度）までに平成28年度（2016年度）比8%削減し、循環型社会の構築をめざす



豊中市の2020年度の取組み

- ◆ 豊中エコショップ認定店舗の特長的な取組みを明確にする「豊中エコショップラベリング制度」を運用開始
- ◆ フードドライブ実施事業者が拡充。株式会社ダイエー、社会福祉法人豊中市社会福祉協議会、豊中市が「食品ロス削減推進大賞審査委員会委員長賞」を受賞
- ◆ 新型コロナウイルス感染症対策としてWEB配信により「ごみ減量フォーラム」を開催

2020年度の指標の進ちょく状況



年間の焼却処理量は、前年度から減少し、第4次豊中市一般廃棄物処理基本計画の年度目標値を達成しました。これは、コロナ禍による休業要請や事業活動が自粛等により、事業系ごみ排出量が大幅に減少したことが主な要因となっています。



家庭系ごみ
1人1日あたり
排出量
(再生資源を除く)

423g

コロナ禍により在宅時間が増え、片付けによるごみや内食によるごみが増えたことで排出量が増加
(対前年8.0g増加)
目標値は約387g

事業系ごみ
年間
排出量
(再生資源を除く)

37,432t

コロナ禍による休業要請や事業活動の自粛等で、事業系ごみ排出量が大幅に減少
(対前年3,416t減少)
目標値は約38千t

リサイクル
年間
率

16.0%

コロナ禍による宅配やテイクアウトの利用増に伴う容器包装等の再生資源が増加
(対前年0.8ポイント増加)
目標値は約19%

家庭でできること

食品ロスを減らそう！

家庭からの食品ロスの要因は、料理を作り過ぎたりして残る「食べ残し」、野菜の皮や茎など食べられるところまで切って捨ててしまう「過剰除去」、未開封のまま食べずに捨ててしまう「直接廃棄」です。少し意識したり工夫したりするだけで食品ロスを減らすことができます。食材を無駄なく使って美味しく食べましょう。

取組紹介

フードドライブを実施しています
生活協同組合コープこうべ

ご家庭で余っている食品を持ち寄り、豊中市社会福祉協議会を通じて支援を必要としている福祉団体や施設に約1,200kg分の食品を寄付しました。



事業所でできること

ペーパーレス化を推進しましょう！

会議の資料は紙を使用せず、プロジェクターやタブレット端末を使用する「ペーパーレス会議」や社内LANを使って、共有したい資料を個々の情報機器端末などで電子データとして取り扱うなど、できることからペーパーレス化を推進し、紙使用量の削減に取り組みましょう。

「地域美化活動用ごみ袋」をバイオマス素材に
豊中市美化推進課

再生可能な生物由来の有機性資源「バイオマス」を10%以上配合したごみ袋を導入し、地域美化活動に活用いただいています。



目標 4

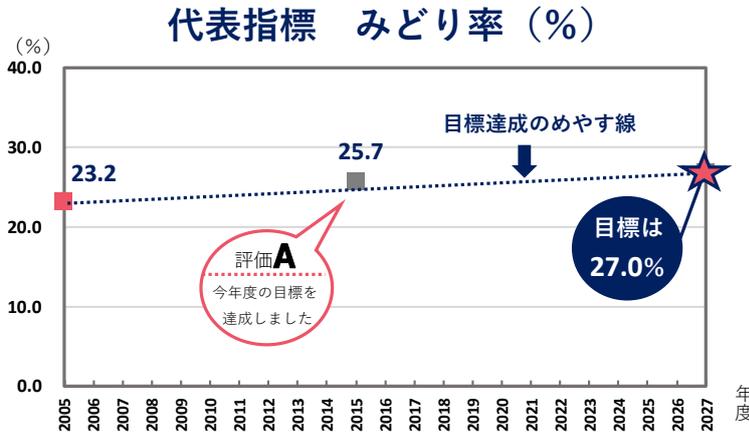
みどり率27%で心豊かな豊中らしい まちをめざす



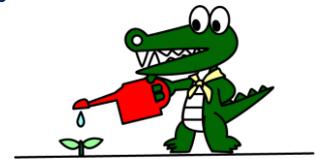
豊中市の2020年度の取組み

- ◆ みどりに関する活動を行う市民や団体などが自由に参加し情報交換や仲間づくりなどを行う交流の場「豊中みどりの交流会」において「みどりのフォーラム」の開催や「花とみどりの名所マップづくり」の検討を実施

2020年度の指標の進ちょく状況



市内のみどり率は、新たな公園緑地の整備や開発行為に伴う緑化、樹木の生長、芝生化などにより増加傾向を保っているものと考えられます。



2017年時点
みどりに対する
満足度 **78.3%**

市全体では目標値 (70.0%) を満たしているが、まとまったみどりの少ない南部地域での満足度は低め ※2020年度調査実施無し
目標値は70.0%

年間
みどりに関する
イベント
参加者数 **2,664人**

新型コロナウイルス感染症拡大防止・緊急事態宣言発令に伴い、大半が中止となったため大幅に減少 (2018年-累計30,314人)
目標値は2018-累計150,000人

累計
市民1人あたりの公園・
緑地面積 **7.09m²/人**

公園面積は増加したが、人口の増加の影響で微増 (対前年0.01m²/人増加)
目標値は7.17m²/人

家庭でできること

地域を美しく！

美しいまちづくりに関する意識向上や美化活動を進めるため、市は地域清掃活動用のごみ袋の無償配布や清掃用具の貸出し、清掃後のごみ回収など地域での自主的な清掃活動の支援を行っています。ぜひご活用ください。
詳しくは美化推進課まで (06-6858-2276)

事業所でできること

事業場や工場など職場にみどりを増やそう！

事業場や工場の敷地内を従業員のみなさんで緑化する場合、樹木を公園みどり推進課で配付しています。みどりの潤いある職場環境づくりにご活用ください。
詳しくは公園みどり推進課まで (06-6843-4141)

取組紹介

まち美化活動協定締結団体 新千里東町地域自治協議会

私たち新千里東町地域自治協議会は、令和元年に豊中市と「まち美化活動協定」を締結しました。その中で「ポイ捨てをしません」「犬ふんを放置しません」などを宣言し、地域の美化活動を通じて、良好な生活環境の向上に努めています。



身近な環境活動を行っています

造園、植栽、緑地管理などの事業を行いながら、とよなか市民環境会議に参加し、環境活動を行っています。SDGsの講習会などにも参加し、日ごろの仕事にSDGsの考え方を反映しています。

洋花園



目標 5

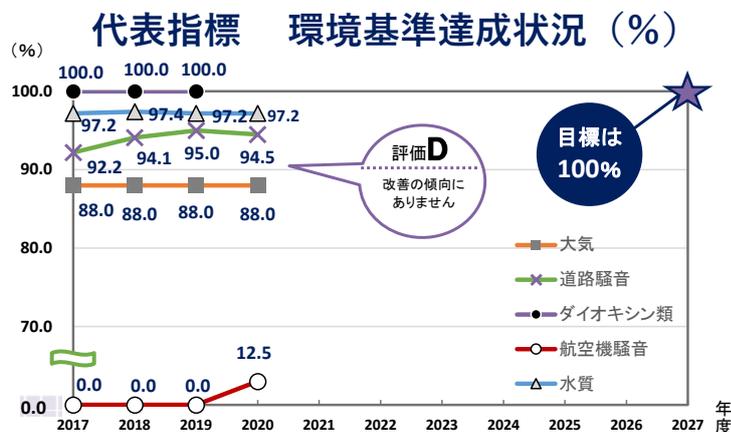
環境基準の達成状況100%で 快適な都市環境をめざす



豊中市の2020年度の取組み

- ◆ 工場、事業場に水質汚濁や大気汚染防止のための立入検査
- ◆ PM2.5の速報値や光化学スモッグ注意報等を市ホームページで公表し、注意喚起
- ◆ 開発行為において、壁面緑化や屋上緑化など多様な緑化計画を協議

2020年度の指標の進ちょく状況



環境基準の達成状況のうち道路騒音は、車両の利用減少やハイブリッド車等の騒音が発生しにくい車の普及により数値が改善しています。航空機騒音については、航空機の離着陸の回数の減少により騒音数値が改善しています。



年間 熱帯夜数 (3地点平均日数) **46日**

平年よりも気温の高い日が多くこれに伴い熱帯夜数も増加
(対前年6日増加) 目標は減少

累計 雨水貯留タンク設置件数 (助成に係るもの) **353件**

新規設置数は前年の2倍に増加
(対前年13件増加) 目標は増加

年間 大気に関する注意喚起回数 **6回**

気象状況の影響により注意喚起数は増加
(対前年1回増加) 目標は減少

家庭でできること

暑さから身を守る習慣を実践しよう！

地球温暖化により熱帯夜数も増えていきます。暑さをしのぐクーラーの利用や市のクールスポットの利用などの「涼む」、暑さを知らせる「情報の活用」や暑さ指数メール配信サービスなどの「気づく」、暑さに強い「からだづくり」やこまめな水分や塩分の補給などで「備える」などを意識し、実践しましょう。

事業所でできること

化学物質の排出を抑制しよう

大阪府では、化学物質の削減に向け各事業者が実施した対策を、業種ごとに取りまとめられています。比較的容易ですぐに実施できる対策も多くありますので、化学物質の排出削減の参考資料としてご活用ください。

大阪府HP



取組紹介

環境に配慮した商業施設

SENRITOよみうり

駅から施設につながる歩行者デッキには、植栽や壁面緑化等を設けており、暑さ対策の「クールスポット」エリアとして親しまれています。この他、雨水利用や太陽光発電による環境対策にも力を入れています。



空港の環境への取り組み

関西エアポート株式会社

大阪国際空港のターミナルビルは、日射対策やLED照明の導入など、さまざまな面で環境に配慮した施設へリニューアルしました。また、航空機騒音についてもホームページにて公表しています。



豊中市環境審議会からの評価

市民・事業者・市民団体・学識経験者などで構成された豊中市環境審議会において、環境基本計画に関することや環境の保全および創造に関する基本的事項を調査審議しています。豊中市環境審議会から、施策の進ちょく状況を評価いただきました。

目標

1

- 再生可能エネルギーの普及啓発等について、市民団体が率先して普及啓発や取組みを進めていることや意見交換会による評価を行っていることなどが豊中市の特長といえます。さらに市民団体と行政、事業者が情報共有を行うなど連携を深めることが必要です。
- 市と近隣自治体が連携して、地球温暖化防止対策に取り組んでいることが評価できます。
- 若い親世代、ファミリー層を中心にアプローチが難しく活動が広がらないことが課題となっています。幼稚園や小学校における授業参観等においてSDGsに関する知識向上や意欲的に取り組める情報を提供するなど、各活動の工夫に期待します。
- 地域の活動者をつなぐハブ機能を持った公民館のように、環境に関する取組みをコーディネートする機能が求められています。市の制度や事業など、環境の観点から協働を促進する役割を持った施設が求められます。

目標

2

- 1人あたりの温室効果ガス排出量は目標の目安を下回り減少しています。省エネルギー住宅や省エネルギー家電の普及など市民の取組みが進み、家庭部門の減少が順調に促進されています。
- 運輸部門の排出量も減少傾向にあります。豊中市では軽乗用車と乗用車のエネルギー消費量が多い特徴がありますが、所有自動車の低燃費化が進み、市民一人あたりのエネルギー消費量が減少しています。
- 今後、第2次豊中市地球温暖化防止地域計画の改定を進める中で、市民・事業者に対し、省エネルギー設備の導入や公共交通機関の利用、次世代自動車への乗り換えを促進していくことに加え、市も新たなエネルギー施策を早急に進めていく必要があります。

目標

3

- コロナ禍で在宅時間が長くなったことにより、家庭系ごみの排出量が増加しています。特に令和元年度に実施した家庭系排出実態調査の結果から、家庭系ごみ中に多く含まれている食品ロスについて、国の「食品ロスの削減の推進に関する法律」等を踏まえ、市の施策を検討する必要があります。
- 今後の事業活動の活発化により、事業系ごみの排出量が増加することが予測されることから、引き続きごみの削減に取り組む必要があります。
- ごみの発生抑制・再使用を優先しつつ、リサイクル率の向上に向けた適切な分別・排出に関する周知を行う必要があります。

目標

4

- コロナ禍により、イベントの多くが中止となる中、「みどりのフォーラム」の開催や「花とみどりの名所マップづくり」の検討など可能な範囲で取組みを進めていたことが評価できます。
- コロナ禍での屋内施設利用の制限などにより公園の利用が増えており、都市における身近なみどりのオープンスペースとして、新しい生活様式を踏まえた公園利用について検討していく必要があります。
- オンラインでのイベントの企画を検討するなど、引続き市民のみどりに関するイベントの参加者数やみどりに対する満足度が向上する取組みを実施していく必要があります。
- ヒメボタルが生息する緑地の保全と活用など、生物多様性の保全と創成に資する環境整備について、今後もさらに進めていく必要があります。

目標

5

- 良好な環境が維持できるよう事業が行われており、道路騒音など改善傾向にある指標もあります。一方で市民や市の取組みで改善が困難な航空機騒音など改善措置が難しい指標についてはモニター指標の再検討が必要です。
- 今後、地球温暖化の影響により熱帯夜や短時間の大雨の増加などの気候変動が予想されるため、気候変動の緩和策と適応策の両面から施策を検討する必要があります。

新型コロナウイルス感染症による環境への影響の一例

イベント開催や活動状況について

- 対面でのイベントや活動機会が減少。

温室効果ガスの排出について

- 家庭内で過ごす時間が増加し、家庭部門のエネルギー消費量が増加。
- 換気回数の増加により、空調利用に係るエネルギーが増加。

廃棄物の排出について

- 通販等の活用機会の増加により搬送用の段ボール類の廃棄量が増加。
- 事業系ごみの排出量の減少。
- 持ち帰りやデリバリー機会の増加、衛生管理の強化により包装用プラスチック等の廃棄量が増加。

公園活用について

- 3密の回避や屋内型施設の休業などの影響で利用者が増加。

騒音等について

- 航空機の離着陸の回数の減少により騒音が減少。